

CISV 創設者、ドリス・トゥウィッチェル・アレン博士が 2002 年 3 月 7 日（木）にアメリカ合衆国バージニア州で亡くなりました。100 歳でした。ここに謹んでお知らせいたします。



写真: Richard Avedon, CISV files

ドリス・アレン博士は、1901 年 10 月 8 日にアメリカ合衆国メイン州で生まれました。アレン博士は、100 年にわたる生涯で、世界中の多くの人たちに感動を与えてきました。博士は家族を愛し、心理学の分野で業績を重ね、より平和な世界を作り上げていく礎（いしずえ）としての異文化理解を推進する世界的な組織を作り上げるために、力強く、たゆまない努力を惜しみませんでした。

アレン博士の学歴は広範にわたり、研究機関との関わりを持ち続けました。メイン大学で化学と生物学の学位（1923 年に学士号、1926 年に修士号）を授与されたのち、ミシガン大学で心理学の博士号を取得しました。その後、1932 年にベルリン大学心理学研究所でそれまでの研究を完成させました。博士は全米心理学専門家会議の特別会員で、オハイオ心理学協会の理事（1943-1948）と委員長（1966-1969）、集団精神療法と心理劇療法の全米協会の役員と副会長（1964-1971）、国際心理学者協議会の財務委員長（1948-1950）と会長（1969-1971）を歴任しました。また、全米科学促進協会の特別会員でもありました。

アレン博士の職歴をご紹介します。博士は、まず、1932 年から 35 年までニューヨーク市の児童教育財団フィールド研究所のディレクターを務めました。1935 年にオハイオ州シンシナティーに転居し、1936 年には、子ども病院と子ども病後療養所に心理相談所を創設し、初代ディレクターを務めました（1938 年まで）。続いて、1944 年から 57 年までロングビュー州立病院（シンシナティー州）の主任心理学者、1949 年から 62 年までシンシナティー大学助教授（臨床心理学）を歴任し、1962 年から退職まで、シンシナティー大学教授（心理学）、メイン大学教授（心理学・心理劇）を務めました。

第 2 次世界大戦後、アレン博士はこれまで戦争を繰り返してきた世界に平和をもたらすための礎

(いしずえ)として、異文化理解を進め、文化の違いを知るための組織を作り上げればいいのではないかと思いつきます。博士は「子どもからはじめる」ということを前提としていました。博士は生前、次のように話しています。「私には、長期的に見れば、平和の究極的な根源は子どもにあるということが分かっていました。」夫や息子をはじめ、博士の夢に賛同した人々の支援や協力によって、博士は多国籍の「ビレッジ」の原型を開発しました。このビレッジでは、子どもたちが世界数カ国から集まります。こうして、子どもたちは、自分たちと、他の国の子どもたちの文化や生活様式の類似点や相違点が分かるのです。アレン博士はまた、このビレッジでの経験は、世界的な研究や、この分野における意見交換のために十分に研究し、記録に残さなければならぬということも分かっていました。

ボランティアや支援者の努力のおかげで、アレン博士のアイデアは、わずか数年で現実のものとなります。1950年に国際子ども村(Children's International Summer Villages (CISV))は、オハイオ州で、非営利法人として登録されました。最初のビレッジは、1951年にシンシナティーで開催されました。その後、50年間で世界100カ国から15万人以上が、CISVの国際プログラムへ参加しました。CISVの最初のプログラムはビレッジで、ビレッジは今でもCISVの代表的なプログラムですが、現在、CISVには、年齢に応じてさまざまなテーマと様式を持った6つのプログラムがあります。毎年、200近くの国際プログラムが開催され、多文化化する地方共同体が増加する中、異文化に対する感覚を鍛え、トレーニングを行うために数え切れないぐらいのプログラムがCISVでは実施されています。

アレン博士は、CISVを創立してからも、CISVを大切に育て上げ、発展させていきました。アレン博士は、数多くのボランティア活動を行いました。また、1971年には、小学生の交流を通じてより多くの子どもたちにCISVの考え方を広めるために、International School to School Experience (ISSE)を創設しました。

アレン博士は、CISVに対してその専門知識や精力的な献身を捧げただけではなく、芸術を愛する気持ちや、自己表現の強力な手段としての劇や身体表現を高く評価するということも教えてくださいました。博士は教育アクティビティの開発に協力しましたが、ロールプレイや創作ダンスは、魅力があり効果的な教育アクティビティのレパートリーの一部として、しばしば採用されました。この教育アクティビティの数は、今でもたえず増え続けています。博士は、実生活でも芸術をとっても愛していました。2001年8月に、最初のビレッジが開催された場所で、CISVを象徴する彫刻の除幕式が行われましたが、この席上、アレン博士の孫娘であるスーザン・アレン・ナン博士は、アレン博士に美術館に連れて行ってもらったときのエピソードを紹介しました。アレン博士は、彫刻を理解し、鑑賞するために、彫刻のポーズや動きを実際に真似てみるよう孫に言ったということです。アレン博士の精神や想像力は、家族、友人やその他多くの人が博士のことを尊敬していることのほんの一部でしかありません。

アレン博士の国際理解と研究に対する多大な貢献は、政府や諸機関からも公に認められました。

CISV における国際平和活動に対して、また、児童心理学者として4つの名誉博士号を授与されています。1956年には、国際交流への貢献が認められ、国際的な人的交流プログラムを組織する White House Conference of 100(ホワイトハウス 100 人委員会?)の一員に選ばれました。1953年にはスウェーデンのストックホルム市から国際関係における優れた業績を称えられ金賞を贈られました。また、1961年には、CISV を通じての「科学的ならびに社会的思想に対する優れた貢献」により、フランス政府から教育功労勲章(Les Palmes Academiques)を贈られました。CISV を通じた国際関係への業績は、1962年に国際心理学会に認められ、1976年にはグアテマラ政府より Orden del Quetzal 賞を授与されています。1999年、博士は「世界各国の子どもたちの理解と友情を育成した」共同体に対する無私の貢献によって、コカ・コーラ社が選出した5人の People At Their Best Awards 受賞者の1人となりました。博士は、かつてビレッジに参加したパスト・キャンパーからの推薦を受けましたが、その推薦理由は「子供たちの心の中に平和を作りだしたアレン博士は、この賞の趣旨に相応しいすばらしい女性です」というものでした。

アレン博士は、ノーベル平和賞(1979年、国際子供年)、自由賞(1999年、アメリカ合衆国大統領から贈られる賞)、ハーグ・アピール平和賞(2001年)、ユネスコ平和教育賞(2001年)の受賞候補者でもありました。

昨年は、ドリス・アレン博士の100歳のお祝いと、CISV の50周年のお祝いが重なった画期的な年でした。世界中のCISV 会員とプログラム参加者たちは、博士を祝福し、その業績を称えました。また、アレン博士が50年前に始めた事業を継続していくことを誓ったのです。アレン博士のご家族と共に、博士に思いを馳せ、博士の生涯を祝福しました。異文化間の教育と理解という目標は50年前と同じく重要であり、CISV はこれを推進してゆくことを決意しました。

アレン博士のご遺族は、子息 Erastus Twitchell Allen 氏、孫娘 Susan Allen Nan 氏、孫息子 Erastus Zachariah Allen 氏、そして曾孫 Jonah Allen Nan 氏です。

以上